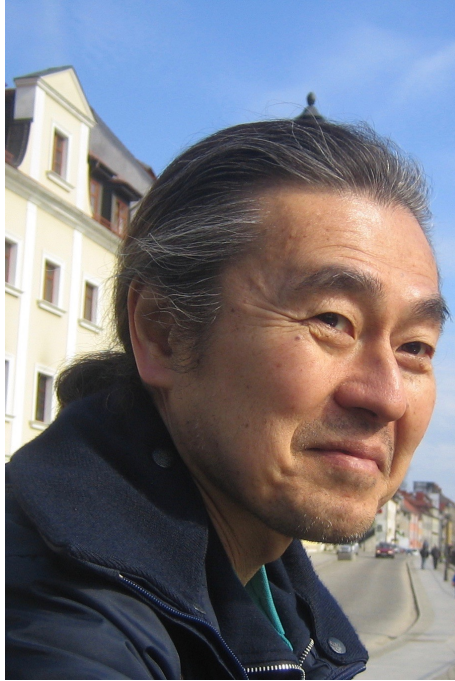


高校生たちと考える国際理解講座

戦争加害国ドイツと日本の話をしよう！

ゲストスピーカー：ふくもとまさお（ジャーナリスト）



プロフィール

ベルリン在住、在独35年、そのうち東ドイツ滞在6年。チェルノブイリ事故後32年続いたドイツの独立系放射線防護専門紙『放射線テレックス』が廃刊になり、独立系情報発信サイトとして『フクシマ放射線テレックス』を共同主宰。 <http://strahlentelex-fukushima.de>

著書に、『ドイツ・低線量被曝から28年 - チェルノブイリはおわっていない』『小さな革命 - 東ドイツ市民の体験』（言叢社刊）

今年は『小さな平和を求めて - ポツダム・トルーマンハウスとヒロシマ・ナガサキ広場の記録（仮）』を出版予定（言叢社）

政治、社会、環境問題の中でも、再生可能エネルギー、原子力発電、廃炉、介護、将来に向けた社会造りなどの問題に詳しい。

ホームページ：ベルリン@対話工房

<https://taiwakobo.de>

みなさん、こんにちは。ドイツ・ベルリンからふくもとです。

戦争が終わって、今年で75年になります。そのために、いろいろな展示会やイベントが企画されていましたが、しかしベルリンでは新型コロナで、ほとんどが実施できないか、オンライン展示会などに代わっています。

ドイツが降伏したのは、1945年5月8日でした。それで、終戦となりました。今回ちょうど時期的にタイミングがいいので、これまでドイツで取材してきたことから、ドイツの戦争に対する戦後の取り組みについていくつか事例を紹介したいと思います。

それを見ると、今新型コロナの対策で日独に大きな違いがあるのも、わかるような気がします。それについても、みなさんと一緒に検討したいと思います。

今回は講座といっても、みなさんと一緒に考えながら、対話するものです。ぼくは、単なる情報提供者にすぎません。みなさんが主役です。みなさんの考えるきっかけになればと思います。みなさんの質問を待っています。

日時：2020年5月10日（日）15:30～

場所：みなさんの自宅

申込先：<http://earthwalkers.jp/> で申し込み！